



「精神障がい者の方々と共に生きる」

菊地 茂 会 員

このような機会を与えていただき感謝します。私の好きな言葉は“今日は残りの人生の最初の日”です。行政書士の仕事を通してライフワークである精神障がい者の方の出会いというものを与えられています。私にとって仕事というものはまさに人生そのものであり、仕事を通すことでより人生が豊かになるものであると思っています。行政書士の仕事は主に許認可関係が多く、建設業許可・風俗営業許可・産廃許可など合法的によりよい社会活動を行うためのお手伝いをしております。そのなかで今回紹介しますNPO法人シャロームの会というものが出てきました。これは仕事のなかで、精神障がい者の法律相談に関わる機会があったことがはじまりで、はじめは精神障がい者の方とどのように関わったらよいのか判らず、関わり方を学びたいという気持ちがカウンセリングスクールに足を運ぶきっかけになりました。仕事はしたいけれど社会のなかに入ることが難しい人などをはじめ、悩みをかかえた様々な人が多く仕事でもそのような話しが多くなり、やるのであればよりきめ細かく対応したいということで3年前にNPO法人シャロームの会を設立することになりました。

精神障がい者を社会に適応してもらうための制度として「職親制度」というものがあります。これは普通の会社に就労する自信がない人が協力事業所に通いながら就労を続けていくために必要な訓練を受けるものです。私の事業所にもその制度で受け入れたスタッフがおり、現在では一般就労までできるようになりました。精神障がいは“関係の病”といわれ、人との関わりあい

うまく出来ずまた、自分が病気であると認めることのできない人もいます。

シャロームとはヘブル語で、イスラエル地方で挨拶の言葉の一つとして使ってます。“平安”と訳されますが、日本的にいうと“大丈夫”であると理解しております。大丈夫というのがシャロームの言葉であると思います。何が大丈夫なのかと聞かれますが、私もあなたも大丈夫、人間はそのままですばらしい存在である、それがシャロームですと答えております。赤ちゃんをみると、存在そのものが素敵であり、何ができるかとか出来ないとかではなく、生かされているそのものが素敵なのではないかというものが原点ではないかと思えます。病気の状態であってもそうでなくても、あなたのそのまますべて素敵ですよと伝え、それを素直に受止めてくれれば、別の意味でその人の病気は治ったのではないかと考えています。病院通いをして、薬を飲んでいても自分自身の病気を素直に受止めることにより、社会にとけ込める人を見てきました。

最後に、伝えたいことがあります。Presentという言葉があります。「贈り物」「今この時」「現在」それぞれの意味があります。それは、幸せへの大切な鍵は過去を振り返ることでもまだ来ない未来に不安を抱くことでもなく「与えられた今、この時が最高」としっかり心に語り聞かせることではないかと思えます。これからも精神障がい者との関わりあいを通して自分を高めていくことが奉仕の原点であると思っています。

(11月24日卓話)